

愛顔 かがやけ 池島魂



～「今日も楽しかった。明日も楽しみ。」と思える学校を目指して～

発行：令和8年9月1日（火）NO12 文責：校長 津田 幸一

学校 HP URL <https://www.nagasaki-city.ed.jp/ikeshima-h/>

2学期のスタート

とても暑かった夏休みも終わり、子供たちの元気な顔が学校に戻ってきました。子供たちがこの夏を乗り切ったことを、うれしく思い、安堵しております。

夏休みの思い出として、印象に残ったのは、実家の前にある公園で出会う子どもたちの元気な姿です。大人なら耐えられないような暑さの中に外で遊んでいることに、昭和子どもであった私はとてもうれしくなりました。

特に「こんにちは!」といった元気なあいさつの声をかけられると、とてもうれしくなりました。なぜなら、「学校の外であいさつができる」ということは、簡単なようでなかなかできないことだからです。

ごく自然に挨拶の声を発することができる。これは普段の家庭生活の中で身についたものであると考えます。

さて、今日から2学期です。この学期は行事も多く、あわただしくなりますが、子供たちが大きく成長することも期待ができます。そのためにも少しでも早く、生活リズムを取り戻させ、よい再スタートを切れるようにさせたいと考えております。

<2学期の重点取組>

本日の始業式では、私から、子供たちに、次の2点が2学期の重点取組であることを伝えています

- (1) 「早寝・早起き・朝ごはん」
- (2) 「言葉を磨く」

まず、このことを突破してからの全面展開です! ご理解とご協力をお願いいたします。

児童作文『ごあいさつ』 ～言葉を磨く～

Sさん(4才)
ママは、ときどき、私のしらない人と、あいさつをします。もちろん知っている人とも、あいさつします。そんなとき、大きなこえで「だれ」ときくと、「しつれいでしょ」としかられます。だから、小さなこえで「どなた」ときくと、「同じとうにすんでいる人よ」とか「こうえんでよくあう人だけど、おなまえはしらないのよ」とか、「おともだちのおともだちよ。」なあって、こたえます。
「おなまえをしらない人とも、ごあいさつするの」ときくと、「そうよ。おなまえはしらないけれど、おかおは、よく知っているのよ。ごあいさつしたほうがきもちいいでしょ。」といいました。しらないけれど、知っている人、なんだかよくわからなかったけれど、「ごあいさつは、きもちいいのね」とおもいました。
朝日作文コンクール入選作

重点取組「言葉を磨く」と関係がある作文です。

さりげない親子の会話のようですが、子どもは「知性のアンテナ全開」で家族の言うことに耳を傾けています。

Sさんが大きな声で「誰?」と言うと、「失礼ですよ!」とたしなめ、小さな声で「どなた?」と問うと、優しく答えています。

こうして、対人関係のあり方を子どもは理解していくのだと思います。

また、作文中で使っている「お名前、お顔、ご挨拶」といった美しい言葉を、Sさんは感じ取っています。Sさんも、同様に丁寧な言葉を使っています。

4歳の子どもが書いた作文というだけでびっくりですが、大人も学ぶことができる文章です。

「言葉を磨く」、学校とともに取組をお願いします!

2学期行事予定



小学校

- 10月 修学旅行 小体会 地域合同避難訓練
- 11月 文化祭 小音会 池島まつり 人権講話
- 12月 人権集会 もちつき大会

中学校

- 10月 体育祭 連合音楽会 地域合同避難訓練
- 11月 文化祭 池島まつり 人権講話 期末T
- 12月 人権集会 もちつき大会

